

C-3 親子関係の発展過程に関する研究Ⅰ—三者関係の発展過程について—
お茶の水女大家政 平野尚子 ○黒田淑子

目的 人間関係を「間」関係的に把握する三者関係^①の視座にたつて、親子関係の発展のしかたをどのようにとらえることができるだろうか。本研究においては、「関係に対する関係の通路」をもち、個々「関係」自体の相即的發展を可能にする三者関係の発展過程について探求し、親子関係の変革・発展をもたらす三者関係技法、媒介技法の活用、開発、展開の可能性を探る。また親子関係研究における心理劇法の方法論的特色を明らかにする。

方法 行為法・心理劇法による研究—1980お茶大人間関係研究会、心理劇研究会、道臺集団研究会母グループ、乳幼児集団研究会グループでの心理劇の展開…実践に対応する生活縮図の場面を構成しての心理劇の展開、三者関係技法の定着

結果と考察 (1)母子ありいは父子の二者の活動における三者関係の発展過程 A 内接—接在的運動(二者関係的—三者関係的運動)の展開…親が子の動きに即して、子どもはかき、先の方角・軌道をつくるなど B 外接—接在的運動(二者関係的—三者関係的運動)の展開…親子がそれぞれ独自の性をいかし、開発しながらい、間に交差領域、媒介領域を成立・展開させるなど (2)父母子ありいは親、上の子、下の子の三者の活動における三者関係の発展過程(三)の問題状況の変革・発展過程をとりあげ、媒介者の役割技法を開発する。C₁二者内接—者外在、外接の関係が固定化している→、C₂三者外在、二者が一者に向き合っている→、C₃三者外接(交差)の間は一者が動きかかると三者接在的運動の展開…媒介者における自己の意識の分化・統合など。①関係学、創始者松村康平氏による把握しかた、<参考文献> 松村康平「心理劇—対人関係の変革」、誠信書房、その他 Ⅱ参照